

防災セミナーを開催しました

犠牲は最小限
備えは最大限
地域のつながりが命を救う



例年9月1日(防災の日)は対象地区を
決めて、避難訓練等をはじめとする防災
訓練を行っています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大
防止の観点から、これを踏まえた避難行
動等について学ぶ『防災セミナー』を区長・
防災士などに限定して、ふれすぽ胎内で
開催し、132人が参加しました。

講演では、NPO法人ふるさと未来創
造堂様を招き、取組紹介では、胎内市防
災士連絡協議会の緒形様からお話した
だき、市からは防災専門員が避難所にお
ける感染症対策について説明しました。

災害発生時、人と人との関わりやつな
がりなどの、地域のコミュニティ力の高
さが、『犠牲者0』^{ゼロ}に近づけるための大き
な要因になるということを知り、参加し
た多くの方からは、「一人ひとりの、そし
て地域の防災意識の向上が、命を守るう
えでいかに重要かということに改めて感
じた」などの声を頂きました。



NPO法人
ふるさと未来創造堂
常務理事・事務局長
なかの まさつぐ
中野 雅嗣 さん

【講演】災害の備えと避難生活の感染症対策～被災地の実際から～

- ①「3つのない」 物が落ちてこない・倒れてこない・動いてこない
家具などの転落防止対策を行い、物が倒れてこない場所に寝るなど、家の中を
「安全地帯」にすることが重要です。
- ②自分と家族が無事であること(自助)は、ほかの人を助ける(公助)ことにつながります。
⇒阪神淡路大震災では約95%の人が自力または家族・地域の人により命を救われました。
- ③ある程度の予測ができる風水害では、避難をためらう近隣住民等を巻き込み、避
難の呼びかけを行いましょ。⇒危機感を共有することにより多くの命が助かる
可能性が高まります。
- ④避難所への避難がすべてではありません。⇒安全を確保できる親戚・知人宅への
避難などの「分散避難」を検討しましょう。

【取組紹介】塩谷集落での避難行動に関する防災士の取組事例等について

- ①塩谷集落の自主防災訓練の計画に携わっています。
- ②集落内の危険箇所を調査し、集落の皆さんと情報を共有しています。
- ③集落での防災勉強会で、要配慮者の支援方法等についての確認を行っています。
- ④集落の皆さんのコロナ禍における避難行動について、説明を行う予定です。



胎内市防災士
連絡協議会
防災士 おがた ゆうた
緒形 祐太 さん



講演会の様子



避難所用間仕切りの展示



ボールフェンスを使用した
居住スペースの確保